

7
8
9
30
1
2
3
4
5
6
7
8
9
40
1
2
3
4
5
6
7
8
9
50
1
2
3

明治六年一月

新貨五錢



知新新聞

第三號
附錄

驛遞察檢

東京横山町三丁目
太田金右衛門



18
406
3



味條閣

第廿二號

明治六年一月

郵便報知新聞第廿二號附錄

明治六年癸酉第一月

○宮城縣參事塩谷良翰大藏省全建白書

謹而惟ルニ方今文明ノ政大ニ旧弊ヲ革メ萬機公正百
 廢俱ニ舉ル然ルニ獨リ租稅ハ一以ニ旧貫ニ因循ス曰
 貫稅法不均ハ不待論然レ氏若レ今日ノ事態又論ズ
 平時ハ一層更ニ甚シキ者ト可云何ヤカレバ昔日ノ諸
 侯及ビ士守國護民ノ職アルヲ以テ給テ民ニ取ルノ條
 理アリ今皆既ニ其職ヲ解ク何ノ理アリテ猶給テ民ニ
 取ルヤ蓋シ昔日ノ功勞ニ酬テルカ然レハ則其祿固ヨ

及口介開 第廿二號附錄

以職俸三非不全ク其身ノ家産ニシテ民ノ田産ヲ有ス
 此ニ同シ均ク是家産ナリハ独リ税ヲ免ルハ何ゾヤ
 一夫地ヲ耕セハ尺寸モ必不税之商賈ニ至リテハ利國
 中ヲ罔シ富海内ヲ傾クルモ不税商賈昔日一定ノ税則
 無シト虽斥尚モ非常ノ失費ナクハ用金ト称シ其力ニ
 應ジ金ヲ出サシムルノ事ナリ今皆如此ノ事無シ均シ
 是國ノ保護ヲ受ク其國費ヲ償フニ至リテハ唯農ニ
 是レ頼ル一農ヲ苦シテ以テ全國ヲ護シ士商其他皆
 坐シテ其賜ヲ受ク偏重ノ甚シキ者ト可云是常ニ農業
 不勸地力不興計費ノ不足而國力ノ不充所以ナリ要ス

ル一 土政無日理勢固ヨリ不得止ト虽此方今ノ明
 減實ニ此ニ在リ然レ此事億兆ノ人心ニ係リ勢卒カニ
 施シ難キハ勿論其之ヲ改メ之ヲ心ニ至公至均ニ歸セ
 シムルノ方法ニ於テ亦時勢的當ノ良説ヲ不得是レ税
 法ハ暫ク曰貫ニ因ル所以ト虽此悠々ク以ニ安シズ
 ベカラズ宜シク大ニ輿論ヲ尽シ速ニ國內平均ノ税法
 ヲ定メガルベカラズ向キニ東京府下地券ノ議起ルノ
 聞ク以為ク西國ニモ有之是即檢地ノ良法ト次テ各縣
 無税地又人民一般ノ所有地ニ及フ是レ不檢ニテ廣
 狹肥瘠ノ実ヲ知り產出利益ノ數ヲ得ルノ術則チ税法

更^ニ正^ス、礎^ニ偏^シ重^ク、憂^ニ從^ヒ是^レ以^テ除^ク、ベク國^ノ力^ニ從^ヒ是^レ以^テ充^テッベ^シ其^ノ地^方ニ関^スル者^ハ折^リ躍^リ後^ニ事^ヲセサル無^ク愚^ク民^ニ或^シハ増^シ稅^ヲ疑^フ論^スニ決^シテ稅^ヲ増^スニ非^ズ平均^ヲ求^ムルニ在^ルヲ以^テス就^シ中^ノ當^ル地^部頑^固ノ民^心初^メ頗^バル狐^疑ス然^レ氏^ノ懇^諭ニ因^テ水^解シ地^ノ廣^狹必^シ實^地ヲ以^テ地^券ヲ受^{ント}請^フ者^多シ右^ハ毎^々縷^述ノ通^リ簿^帳錯^雜實^地難^辨ヲ苦^ム仍^テ曰^ク弊^一新^ノ際^右ニ不^レ因^實地^有形^ノ俛^ヲ以^テシハ調^査一^易ク且^ニ民^心ニ甘^ズルヲ以^テナリ然^レ氏^ノ如^此セバ御^達ノ御^趣意^悖矣^ス故^ニ實^地ノ粗^語ハ其^レ終^據置^キ姑^ク且^ニ二^百余^年、曰^ク簿^一依^リ

高^反別^實地^不的^當券^面押^印ノ上^ニ檢^査ノ文^字ヲ加^フ心^實ニ不^レ安^民間^或ハ謂^フ果^シテ平^ヲ求^ムルニ非^ズ若^シ全^地元^價ノ大^數ヲ知^ラントセバ在^來反^別ノ外^無稅^地ノミヲ調^査合^計セバ大^計ヲ知^リ目^的ヲ立^ツルニ於^テ可^レ足^シ若^シ又^ニ民^ノ所^有ヲ固^クセントナラバ一^片ノ布^告ニテ足^ルベシ以後^賣買^ハ必^ズ官^許ヲ可^レ得^トナラハ賣^買ノ節^ノ證^印シテ可^ナリ官^地押^借地^ノ外^銘々私^金ヲ以^テ所^買從^來ノ所^有地^ハ必^ズ吾^ガ所^有地^{ナル}事^ハ吾^固ヨリ自^ラ之^ヲ知^ルト管^内ハ昨^今人^多歸^農多^ク動^モスレハ紛^議苦^情ヲ唱^フ今^試ニ縣^ノ近^村ニ三^ノ證

印税ヲ算スルニ名取郡熊ノ堂村植松村加美郡宮崎村
高合六千二百三十石余筆数一万六千五百五十四筆一
筆五錢ヲ以テ算シ八百二十七円七十錢管内ニ推算シ
七万三千六百円余是レ耕地産出ノ外未曾有別途ノ出
金ナリ近來ノ民費實ニ曰ニ幾數倍ス民ノ苦情亦想像
スルニ是ル況ヤ頻々書換如此ナラハ民實ニ難堪カラ
ニカ且山間多クハ梯田一筆少畝歩ノ地多ク動モスレ
ハ冷水掛リ不熟失費ヲ不償下多シ山居ノ民ニ非カレ
ハ耕人モ無ク少畝歩ノ地ハ地價等ハ難付程ハ場所
之右等モ都テ一筆五錢ノ税ヲ収ノハ現在ノ本税ニ勝

ル下多ク可有之儀尤人ノ所議ニシラ之ヲ諭ス於
テモ甚々苦ハ所ナリ既ニ朽木縣置賜縣ノ伺モ有之候
得ドモ御採用無之根元何様ノ御會議哉ハ不奉伺得
共即今御趣意ノ大躰全地元價ノ大数ヲ知り及ヒ人民
ノ所有ヲ固メスル迄ノ儀ニ候ハ既ニ前議ノ如クニ
テ可然又地券御渡相成小共大躰ノ御趣意ニテハ障
ナクハ右御調べニ付テノ税金ハ御收無之他日賣買證
印ノ節々御取立ニテ可然右取調失費ハ民ニ課スル
御趣意ニハ其所有ノ力ニ應ジ御收税ニテ可然必
ス十圓以下一筆五錢本税ヨリ増シ小共御取立ト御定

ニモ及間敷奉存ハ則其所有ノカ券面ノ惣金高ニ應ジ
 御收税相成ハハ證印税ノ名義ニモ相当仕リ且證印
 税ノ名義ヲ以テ本税ヨリ増方ニモ相成ハニテ自然若
 情モ可相増合般地券ノ擧ハ實ニ國家隆興ノ基原ト一
 同奮効ノ抗柄聊ノ義ニテ下々若情地方臨御ノ際心ニ
 不安様ノ儀有之ハテハ自然他日之障碍ニモ可相成ト
 杞憂仕ハ右ハ一旦御達ニハ相成外得共何卒更ニ出格
 御會議ヲ以テ取前ノ御達ニ御列直其都ノ地券惣金
 高ニ應ジ御収税地券渡方平易ニ相濟ニ速ニ國內公平
 税則御定相成度懇願切々至リニ不堪奉存ハ冒瀆

威尊惶懼無止跡死謹言

○英國龍動新聞

日本全權大使及附屬々大藏省外務省工部省戶籍局及
 醫學局ノ官員等クラシウケル以候共其夫人ト共ニ喫食
 アリ食子リテ萬國生産博物館及官有ノ園庭等ヲ覽
 アリタリ此時格蘭ウケルハ右日本貴客ノ為メニ先
 驅シテケンシングトン、ブートルノ博物館ニ至リ同所ニ
 待請タルマシヨルビ子ラル、マエツトリユイテナント
 官ノクレイトンコトル及クロトブルマジヨル、デ、ウ、ン
 トンケピテ、モ、ン、セル其他掛リノ人々ト共ニ西北

ノ門口ヨリ右貴客日本ノ迎へ入レ一同館内ニ集レリ
此時ソル、ハルリト、パークスミマトル、エルトンユウン
ト、マツフエーソル、フレデリック、サンドフタルク共コ
ラシテス、格蘭ウ井レミツセマパークスロルド、クラ
ンウ井レノ姪姪ナルミツセマ、ピットヲ始メトシテ餘多
ク、貴女同所ニ集リ來レリ此館ハ月曜日ノ夜十時迄諸
人ノ入ルヲ許スニ因リ大使及附屬人々通行ノ路筋
等ニ衆人羅列シ又園庭ノ以テ群集セリ此亦ニ西
角ナル大毛壇毛壇ヲ舗キ其上ニ花壇ニテ包ミタル所謂ソ
ウズケンシングト稱スル椅子其他美麗ナル腰掛

等ヲ連子タリスコットソレユルスト稱スル樂隊廣大
ナル硝子造リノ建家ノ西方ノ端ニ陣列シ群聚ノ人、日
本人ノ來ルヲ待受ル間音樂ヲ奏セリ館内柱頭ノ周圍
ニアル瓦斯燈ニ點火シ能ク裝置シタル内庭ハ大ニ壯
觀ヲ尾セリエ人ノ椅子ヲ取除ケテ更ニ一層ノ好景
ヲ加ヘシナラン植園北方ノ中央ニ能ク裝飾シタル大
高キ二本ノアマリカエロース植物名花盛リノリ西印度
又ハ米國ノ或ル地方ニ於テ謂フ所ノエローノ之斯ク
高キ幹ナルメイホールユロースト同樹ナリノ花ヲ當
所ニ於テ見ルトハ實ニ稀ナリ此事件ニ付多クノ奇事

人民ノ聚合ヨリ出來セリ大使等プリンス、アルベルト
 路頭ニ近キ入口ニ到リ礼式終リ画樓ニ誘ハレ又樓ヲ
 降り北方ノ機械局ニ護送セラレ終リ画室ヨリ其通行
 高床ニ平均シタル廣縁迄無案内ニテ行ヒタリ其夜炎
 暑ニ非ズト虽モ温氣ナル故涼風ヲ吹ケテ家根無キ廊
 下ヨリ使道ヲ歸リテ時秋月庭上ニ耀キ又羨服ナル器
 中ノ水ニ映ズルヲ何トナク眺メル様ニ仕掛アリタリ
 博物館ノ中廊ニ至リテハ左右ニ群集セル見物人ノ中
 ヲ通行セラレタリ其時見物人日本服ノ奇觀ニシテ人
 月ヲ驚カスヲ見ント欲セシニ豈計ラント西洋服ナル

ニ依テ大ニ失望セリ西國人ニ誘ヒタル日本大使其
 陪從ノ人々自國ノ衣服ヲ捨テ政羅巴及比亞米利加衣
 服ヲ着用セルガ故ニ之ヲ西國人ト區別スルニ甚ク難
 シ大使ヘ同行ノ西國人ロベルト、セズロ、ン氏ナル者
 ハ實ニ生國カナダニシテ血統ハスコット人種ナリ故
 ニ式ル人彼レヲアイルランド人種ト言ヘリ彼レ曰ク
 我レハスコット人種ニシテ出産ハカナダナリト言解
 ノ折ヲ得タリ旅客ノ各稍不規則ナル及ヒ迷ハシキ育
 様ニテ實ヲ言ヘハ甚ク暗キ通路ヲ通りテ室ニ着シ同
 所東方ノ端ニ於テ坐ヲ取り定メリ途中ニ於テウエリ

テールブル、ルックス、エノ、ロセントナル燈ヲ用フベキ
 為見物ノ建家等ヨリ遙カ暗キ日本物品飾リ場ヲ通行
 セリ此ノ処テ物品飾件ハハルリ物品列付方頭取司ニシ
 氏助クハ暫時見視スルニ足リシカハ薄暮中一二ノ
 硝子箱ヲ規視終リテ此群客再ビ列ヲナシテ歩行セリ
 右箱中ハハ蔣繪ノ盆屈枝ノ銅製樹木菓實ノ代リニ大
 リ及ビ種々ノ物アリ日本人ノ目ニハ余リ珍シカラズ
 ト虽ハ稍細見セガルヲ得ガルニ至レリ花窓ニ止ル
 唯須臾ニシテ夫レヨリ日本人東ノ方画樓中へ誘ハレ
 此処大畧見視シ終テゼラリスコット其他博覽會掛

官負へ別ヲ告ゲ其夜博物館中遊歩ノ愉快ノ英語ニ顯
 ハレテ去レリ

○鐵道寮七等出仕小野氏論說
 東京其他新文紙社中ニ投下ていづく昔隣國の唐人が
 我國ニ廣めざる四角の字ニ付て正ニ面白き論說起れ
 リ今や文明の世ニ臨み開化乃時節至来リ此頃の新文
 中ニ其論說再三去れあり何れも因る所同事ニして其
 字數の限なく事乃迂遠と偏固の弊を委々述よりこれ
 名至極宜しき論說と思ハる如何にとるれば何事も婦
 女子のふと此如く平假名ニテ諸事を并せり其簡易な

るる横文字も同ふし少年の者早く自國の委細を知り
り次ふ又横文字も入安く僅二年と重ねれば夫々自
己の働が其程々ふ働を終る人智の妙用をも尽さべ
いされハ迂遠と弊風を除くと乃論說最もよしとする
まを新聞紙社中何れも文明の中立開化乃取次と主
とせざるべき方々御國の為取と凡會社中乃第
一といふべく然るも新聞中好む六ヶ數字を書れる
る何の譯るる哉建言又御届書杯よ六ヶ數字がある
なれば平假名を付てよくとる様も自分達かいふ
事有ふれと字と平假名がよく去れよ付て申入度次

第あり若新聞紙社中偏固の筆者が居るは早々
あれを追出し跡は草双紙杯乃作者と倍々増の給料
みて雇入一式の新文と草双紙乃如くよくとるか様
ありし一然る時必婦女子も見るべくして又大店
向乃若衆といふ人達迄も新聞紙の來ると待てし三都
石申迄もなく諸國縣下に至る迄新文紙を待るれば實
に丹精の詮も何りて倍々増乃雇賃も安らふぞ然る
よ今乃新文の官員日でもなる位に者をあられハ讀
るべし此事の廣狭を能く吞込若哉新文紙社中の内
幕斗でなく外り世語を尋る人よ六ヶ數字を好む人

が何る形もバ折角の新文紙がちんねんかん成り
と断りよしさて又外國より其日の新文を蒸氣仕掛
乃道具もと廣き紙は摺出する其早き事風は木の葉の
散るよりも早く其盛んなるるいさばと知るべし更
其通る仕様と思はば急ぎむご事止しれよ片假名も
先づいさぬ事なれば吳々も婦女子も見馴と字と平假
名もてさうはがより深く思ふ
皇國を元來假名文字より事情悉く行渡り何と不足と
する事なり依て前段の意を廣く及ぼし終る新文の
とせざる外は事おも移り行き若一齋乃事り平假名不

て事足る様よなるるは開化の出来上り坎ともいふ
べくして新文紙社中の大功といふべき也然れ共夫
る暫く年月を重ねべしされば差向此投書ふ付てる事
乃繁昌を歎れいさぬ世話といふ形られ普く新文紙
社中の返事或新聞紙もて承りたり

○陸軍大輔山縣狂人建言書寫

臣狂人謹ンテ白ス夫レ國ヲ治ムルノ本ハ法ヲ立ツル
ニ在リ法立ツトキハ則チ民安ク國治マル一モ兵備ヲ
要スルヲナキカ如シ然而國家卒然有事ノ際ニ當リ能
ク公法ヲ維持シ法令ヲ確守シ國土ヲ保護スルハ則チ

長コ十月 高士二子付録

兵備ニ頼ラザルヲ得ズ兵備施設ノ方法ニ至ツテハ容
冬己ニ裁スル所ノ徵兵今ニ詳カナリ臣等謝劣ノ庸才
是レヲ實際ニ履行スルハ極メテ難シトス然レ是實ニ
皇國軍事ノ一大改革ニシテ兵制ノ面目ヲ一新スト謂
ベシ臣等謹テ此令ヲ奉戴シ今茲明治六年ヨリ全國ヲ
分ツテ六管トナシ各一鎮臺ヲ置キ首トシ東京鎮臺管
下ヨリ著手召集シ其學術技藝ヲ策進シ漸次全國ニ及
バシメンコトヲ要ス而シテ徵兵ノ法ハ其民政ニ開涉スル
極メテ大ナリ故ヲ以テ地方ノ官吏臣等同心協力シ厚
ク天下ノ民自カラ樂シテ之ヲ向ハシヨト必セリ於是

乎兵制始テ備ハリ内ハ以テ草賊ヲ鎮壓シ外ハ以テ對
峙ノ勢ヲ張ルニ足ル然ラハ則チ兵ハ誠ニ治國ノ要ニ
シテ民之ニ頼テ安ク法之ニ頼テ立チ國之ニ頼テ無事
是兵ノ一日モ忽カセニスベカラザル所以ナリ臣狂人
企望ノ至リニ堪ズ
○足柄縣令參箱根山古道開發荷物搬送之儀ニ付大藏
省ヘ伺ノ寫
管下相州足柄下郡箱根宿ノ儀ハ山上無高ノ脊地從來
旅客ノ潤沢ヲ以テ僅ニ舉火致來近頃其利ヲ失シ殆當
惑ノ景況小處今般別紙右宿農天野平左工門外沿道數

名願書之通箱根湖尻ヨリ字長尾峠迄箱根宿ヨリ宿追
分迄古道修繕湖上運送船相設自他諸荷物致運轉度趣
ニ付利害得失等致調査ハ處書面事實相違無之差碍セ
無之ハ間聞届可然哉尤船税ノ儀ハ追テ施行ノ上運送
繁閑ノ模様ニ應シ尚相伺可申候仍テ別紙ニ綴并繪圖
一葉相添此段相伺也

壬申十一月

足柄縣參事揖取素彦印
足柄縣權令柏木忠俊印

大藏大輔井上馨殿

○諸縣郵便道里程并書狀發着日限表

東京差立并着日割	里程	縣名
當日着	八里半	橫濱 神奈川縣
五日目着	百四十八里廿二丁四十四間	兵庫縣
十日目着	三百卅五里五丁四十四間	長崎縣
半日差立翌日着	十九里十四丁	土浦 新治縣
翌日着	五里卅二丁	浦和 埼玉縣
翌日着	十里八丁	川越 入間縣
翌日着	廿里廿一丁	小田原 足柄縣
丁日差立翌日着	廿里二丁間	水更津縣

半日差立翌日着

七里廿五丁

加村 印幡縣

每日差立八日目着

白河より若松通百里八丁廿五間
高田通百十三里廿七間
三目通九十二里廿四丁廿間

新瀉縣

半日差立三日目着

卅里卅四丁

水戸 茨城縣

每日差立三日目着

廿六里十七丁

高野 群馬縣

每日差立翌日着

廿四里廿八丁

朽木縣

每日差立翌日着

廿九里二丁

宇都宮縣

每日差立六日目着

百卅七里廿四丁四十四間

奈良縣

每日差立五日目着

百四十二里六丁四十四間

坂 縣

每日差立四日目着

百里九丁四十四間

四日市 三重縣

丁日差立五日目着

百十七里九丁四十四間

山田 度會縣

每日差立四日目着

九十一里十七丁四十四間

名古屋 愛知縣

每日差立四日目着

八十二里半二十二間

岡崎 額田縣

每日差立三日目着

六十五里十九丁廿二間

濱松縣

每日差立三日目着

四十四里九丁廿二間

静岡縣

丁日差立三日目着

三十六里半

甲府 山梨縣

每日差立五日目着

百廿五里八丁四十四間

大津 滋賀縣

每日差立四日目着

九十八里十一丁四十四間

笠松 岐阜縣

半日差立五日目着

五十九里卅三丁廿七間

松本 筑摩縣

半日差立四日目着

五十八里九丁廿七間

善光寺 長野縣

每日差立五日目着

九十五里廿四丁

仙臺 宮城縣

每日差立四日目着	七十三里五丁	平	福島縣
五九日差立四日目着	五十六里十八丁		磐前縣
丁日差立五日目着	六十九里廿二丁間		若松縣
半日差立六日目着	七十四里卅丁五十九間	登米	水澤縣
半日差立七日目着	百四十四里卅五丁四十二間	盛岡	岩手縣
丁日差立九日目着	百九十六里十五丁四十二間		青森縣
丁日差立五日目着	九十七里廿二間		山形縣
丁日差立五日目着	八十四里廿三丁廿二間	米沢	置賜縣
丁日差立七日目着	百卅三里十五丁卅八間		酒田縣
丁日差立七日目着	百五十一里七丁二間		秋田縣

半日差立七日目着	飯浦通百廿九里六丁四十四間 今庄通百三十七里十三丁四十四間	福井	敦賀縣
每日差立七日目着	北國通百五十六里十四丁廿二間 美濃路通百四里十四丁十四間	美川	石川縣
半日差立七日目着	百卅八里廿六丁五十七間	魚津	新川縣
半日差立六日目着	百七十里廿九丁十三間		柏崎縣
半日差立六日目着	八十八里七丁廿七間		相川縣
五九日差立七日目着	出雲崎ヨリ海路共 百廿里廿四丁廿七間		相川縣
半日差立七日目着	西京通百六十二里五丁九間 大坂通百七十九里三丁九間		豐岡縣
半日差立八日目着	百九十六里十六丁四十四間		鳥取縣
半日差立九日目着	鳥取通二百廿七里廿九丁四十四間 津山通二百廿里七丁四十四間		鳴根縣
半日差立十日目着	津山通二百五十三里廿六丁四十四間 廣島通二百五十二里廿四丁四十四間		濱田縣

坂口所開 卷之二十一 附錄

每日差立六日目着

百六十五里二丁四十四間

雄路 飾磨縣

半日差立七日目着

百八十七里二丁四十四間

津山 北條縣

每日差立七日目着

百八十五里十九丁四十四間

岡山縣

丁日差立八日目着

百九十九里卅一丁四十四間

笠岡 小田縣

每日差立八日目着

二百二十六里十四丁四十四間

廣島縣

丁日差立十日目着

二百五十八里卅三丁四十四間

山口縣

每日差立六日目着

百五十七里十四丁四十四間

和司山縣

丁日差立七日目着

九龜通
二百六里十三丁四十四間

徳島 名東縣

丁日差立八日目着

下津井三九龜通
二百八里卅一丁四十四間

高松 香川縣

二六日差立九日目着

下津井三九龜通
二百四里十三丁四十四間

松山 石鐵縣

二六日差立九日目着

下津井通
三百六十八里卅六丁四十四間

神山縣

二六日差立九日目着

下津井通
三百里十三丁四十四間

高知縣

二五九日差立十日目着

山家通
三百二里九丁四十四間

福岡縣

半日差立十日目着

真通
三百三里二十四間

三瀨縣

每日差立九日目着

二百七十六里十丁四十四間

小倉縣

五十一日差立十日目着

三百六里十八丁四十四間

府内 大分縣

每日差立十日目着

三百六里卅三丁四十四間

佐賀縣

半日差立十日目着

真通
三百廿三里十四丁四十四間

熊本 白川縣

半日差立十日目着

同斷
三百卅四里十四丁四十四間

八代縣

四九日差立十四日目着

同斷
三百九十三里十四丁四十四間

都城縣

四九日差立十六日目着

鹿兒島通四百廿里十四丁四十四間
豐後通三百里六里十八丁四十四間

美津縣

半日差立十三日目着

三百七十六里十四丁四十四間

鹿兒島縣

每日差立五日目着

百廿八里八丁四十四間

西京

每日差立五日目着

百卅九里六丁四十四間

大坂

每日差立五日目着

二百六里十八丁四十四間

大坂

每日差立五日目着

二百廿六里十丁四十四間

小倉

每日差立五日目着

二百廿三里十丁四十四間

三浦

每日差立五日目着

二百廿里八丁四十四間

高田

每日差立五日目着

二百廿里十丁四十四間

高田

報知新聞第卅二號附錄

